

「4 そとに出かけているときに大地震がおこったら」

- 学習のねらい：1. 場所ごとに、さまざまな危険が考えられることを認識する。
2. 状況ごとの適切な危険回避の方法を知る。
3. 避難時に注意すべきことを知る。

(指導上のポイント)

◆児童が危険と考えた理由についても発表させる。

◆絵に描かれている危険の他に、2次災害として、土砂災害（地すべり、土石流、がけ崩れ）、液状化などが考えられるが、地域の実情に応じて指導する。

◆各自が外出時によく行く場所で、どのような危険が発生するかを考えさせる。

◆外出時に身を守る方法について指導する。

例) 火災現場から離れる。

倒壊したビルから離れる。

◆津波のおそれのある場合や津波警報が発表され浸水被害の危険がある場合は高台へ、土砂災害等の危険がある場合はあらかじめ危険箇所を調べておき、危険箇所から離れた場所へ避難することを指導する。

(次年度以降の展開例)

- ・ 地域の地図を用意し、具体的な場所について、発生し得る危険と回避方法を指導する。
- ・ 遠方に出かけた時に、そこで地震が起こったらどうするかを考えさせる。
などが考えられる。

4 そとに出かけているときに大地震がおこったら

(1) 出かけているときに きげんなこと

そとに出かけているときに地震がおこったら、どんなきげんなことがおこるでしょうか？ 下のえとしゃしんをみてかんがえてみましょう。



道路の陥没・崩壊、ビルの外壁看板の落下、商店の倒壊、火災発生、電車の脱線、橋の崩壊・破損、津波 など

【地震でおきたこと】



①ほかのばしょでは、どんなきげんなことがおこるでしょうか。

「おちてこない・たおれてこない・いどうしてこない」ばしょに。

【発展問題】

○地震後、けがをしている人をみつけた時、周りの人によいような言葉で助けを求めますか。

(回答例) 助けてください。けがをしている人がいます。救急車を呼んでください。など

(2) 出かけているときに大地震がおこったら

いつもは いかないような ところへ いったときに 地震が おこったら、どうしたら よいでしょうか？ 下の えを みて かんがえたことを 書いて みましょう。

バスや でんしゃに のっているとき



・手すりにつかまる。

デパートや スーパーで かいものをしているとき



・割れたガラスから離れる。

テーマパークで あそんでいるとき



・遊具から離れる。

うみへ およぎに いったとき



・高い所へ逃げる。

ゆれが おさまって、ひなんするときは…

- 放送が あったら、しずかに きこう。
- おちているものや こわれているものに 気をつけよう。
- そのときに いる ばしょで おこる きげんなことをかんがえて ひなんしよう。
- 津波が きそうなときは、いそいで 高いところへ ひなんしよう。
- あんな ところへ ひなんしたら、もどらない。



10

(指導上のポイント)

◆地震発生時の初期対応として、「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所を見つけ出して、身を寄せることを指導する。

◆左記以外の各自がよく行く場所での危険回避方法についても考えさせる。

◆大雨が降っている等の悪天候の場合や夜間における危険回避方法についても指導する。

雨の日であれば、レインコートを着る。夜間時であれば、懐中電灯を持つ。

◆各回答の補足説明

(左上) 急ブレーキや脱線が考えられるので、手すりにつかまり身を守る。車内アナウンスをよく聞く。外に飛び出さない。

(右上) 割れたガラスや倒れてくる棚などから離れる。従業員の指示に従う。

(左下) 建物の中にいる時や遊具に乗っている時は、落ち着いて係員の指示に従い、移動する。

(右下) 急いで海岸から離れ、近くの津波避難ビルや高台に逃げ込む。

◆身の回りにさまざまな防災施設や設備があることを指導する。

例) 避難場所の看板、高度表示板、防災倉庫、消防署、落石防止ネット、津波避難ビル など

なお、防災マップづくりにつなげることも考える。

(指導上のポイント)

◆「津波が来そうなら、急いで高い所へ避難しよう」とあるが、各市町に津波避難場所を確認するなど、地域の実情に合わせて指導する。

関連学習：ワークシート③

「災害用伝言ダイヤル(171)のつかいかたをしろ」

(確認)

外出先にはさまざまな危険があることを知り、知り合いがない可能性が高い中で、どうすれば避難できるかを理解できたか。